

和
月二十日 印 刷 納 本
和十五年九月一日(毎月一回一日發行)

禁轉載

道路の改良

第二十二卷
第九號

社
團
法
人

道
路
改
良
會

W
19

鋪裝報國

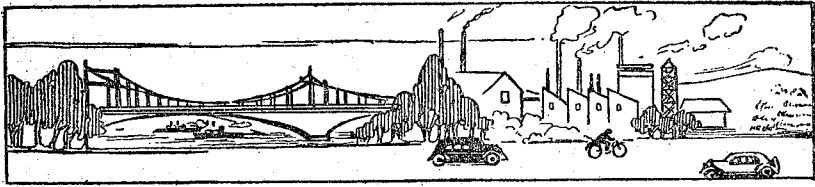
日本鋪道株式會社

東京・丸の内

社長 淺利三期

東京・大阪・福岡・札幌・京橋・臺北・新京・橫濱・名古屋・京都

第一 東京場
 第二 東京場
 第三 東京場
 第四 東京場
 第五 東京場
 第六 東京場
 第七 東京場
 第八 東京場
 第九 東京場
 第十 東京場
 第十一 東京場
 第十二 東京場
 第十三 東京場
 第十四 東京場
 第十五 東京場
 第十六 東京場
 第十七 東京場
 第十八 東京場
 第十九 東京場
 第二十 東京場
 第二十一 東京場
 第二十二 東京場
 第二十三 東京場
 第二十四 東京場
 第二十五 東京場
 第二十六 東京場
 第二十七 東京場
 第二十八 東京場
 第二十九 東京場
 第三十 東京場
 第三十一 東京場
 第三十二 東京場
 第三十三 東京場
 第三十四 東京場
 第三十五 東京場
 第三十六 東京場
 第三十七 東京場
 第三十八 東京場
 第三十九 東京場
 第四十 東京場
 第四十一 東京場
 第四十二 東京場
 第四十三 東京場
 第四十四 東京場
 第四十五 東京場
 第四十六 東京場
 第四十七 東京場
 第四十八 東京場
 第四十九 東京場
 第五十 東京場
 第五十一 東京場
 第五十二 東京場
 第五十三 東京場
 第五十四 東京場
 第五十五 東京場
 第五十六 東京場
 第五十七 東京場
 第五十八 東京場
 第五十九 東京場
 第六十 東京場
 第六十一 東京場
 第六十二 東京場
 第六十三 東京場
 第六十四 東京場
 第六十五 東京場
 第六十六 東京場
 第六十七 東京場
 第六十八 東京場
 第六十九 東京場
 第七十 東京場
 第七十一 東京場
 第七十二 東京場
 第七十三 東京場
 第七十四 東京場
 第七十五 東京場
 第七十六 東京場
 第七十七 東京場
 第七十八 東京場
 第七十九 東京場
 第八十 東京場
 第八十一 東京場
 第八十二 東京場
 第八十三 東京場
 第八十四 東京場
 第八十五 東京場
 第八十六 東京場
 第八十七 東京場
 第八十八 東京場
 第八十九 東京場
 第九十 東京場
 第九十一 東京場
 第九十二 東京場
 第九十三 東京場
 第九十四 東京場
 第九十五 東京場
 第九十六 東京場
 第九十七 東京場
 第九十八 東京場
 第九十九 東京場
 第一百 東京場



道路の改良 第二十二卷 第九號 次 昭和十五年九月一日發行

口繪 獨逸の道路

卷頭言

論 說

道路の性格……………法政大學教授 多田基(三)

時 論

建設事業の心得の心理的一考察……………中川幸太郎(三)

研 究

コンクリート配合法に就て……………内務技師 池本泰兒(三)

資 料

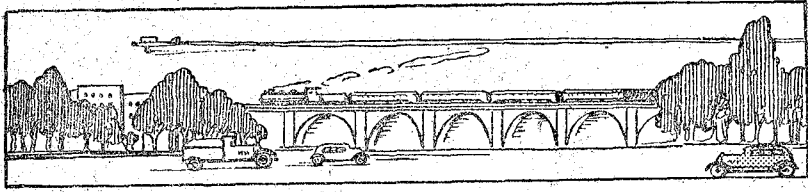
廉價なる跨道橋の構造と基礎工の概要……………東京土木出張所 和田庄藏(三)

皇紀二千六百年と神宮御幸道路に就て……………名古屋土木出張所 古郡哲爾(五)

史 料

歴史的に見たる高知縣の道路(三)……………高知縣廳 瀧口利太郎(六)

說 苑



歴代内務土木局長と其時代(七)……久保田政周氏と下岡忠治氏……………清水(生)三
 陸上交通事業に於ける獨占の推移……………内務省小山勝(尙)
 道路愛護作業へ一提案……………佐賀縣技師鈴木進一郎(尙)

時局日誌(三十六)……………Y H 生(二五)

内務省特報

◎内務省告示◎基本國策要綱發表◎成田土木局長の土木新體制の實相……………(三四)

海外事情

獨逸モーター化の發展過程……………(三五)

法令

最近内務省に於ける路政關係行政處分例……………M K 生(二五)

逐條土地收用法資料(一一)……………高坂孝三(二四)

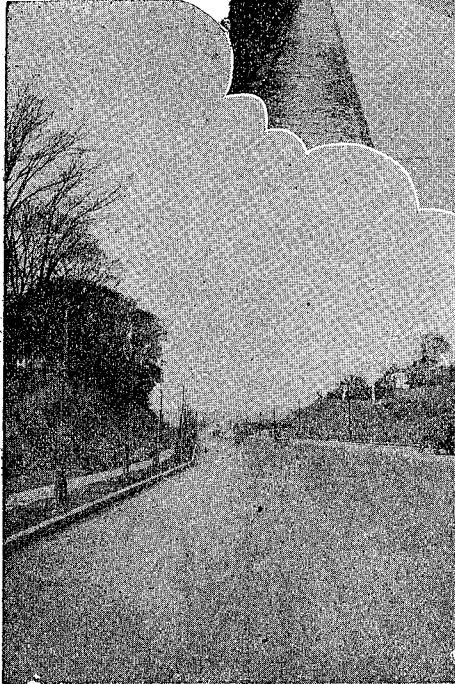
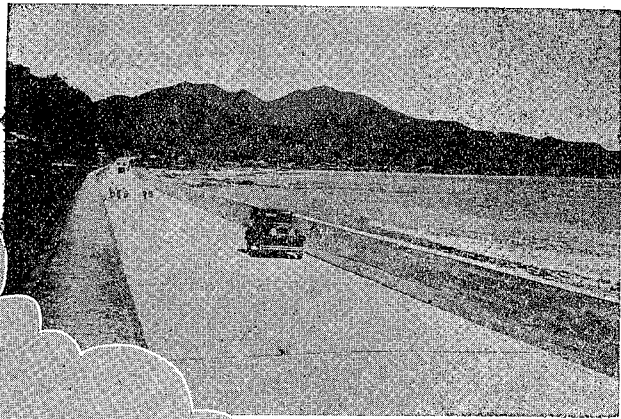
路政春秋

法規と常識とを無視するもの……………其他……………(一五)

雜報

◎道路功績者の表彰◎地方土木部長の交迭◎内務省土木試験所談話會◎近刊圖書雜誌……………(二〇)
 叙任辭令……………(二五)
 編輯室の内外……………(二五)

静岡縣由比國道
ベロセメント使用



早 強
アサノ
ベロセメント

強度 高ク
硬リ 早ク
使テ 經濟

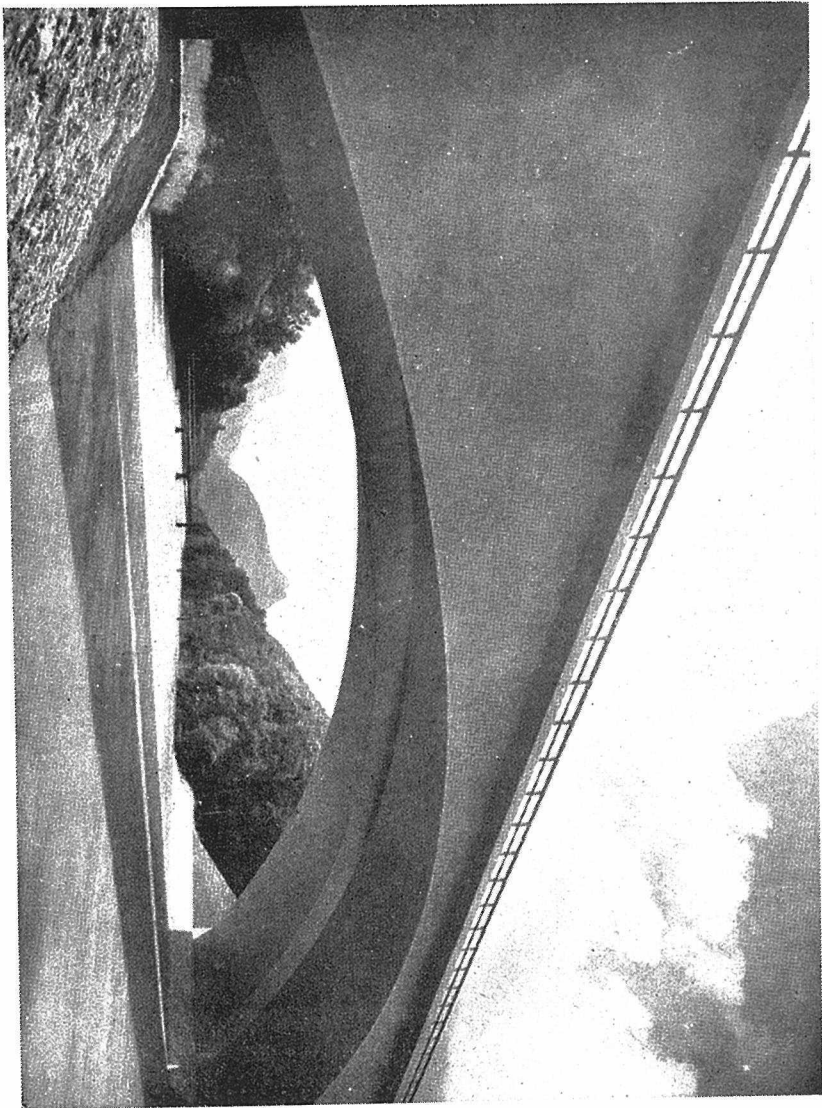
↑ 大宮街道志村附近
淺野セメント使用

— 説明書御申込次第送呈 —

淺野セメント株式會社

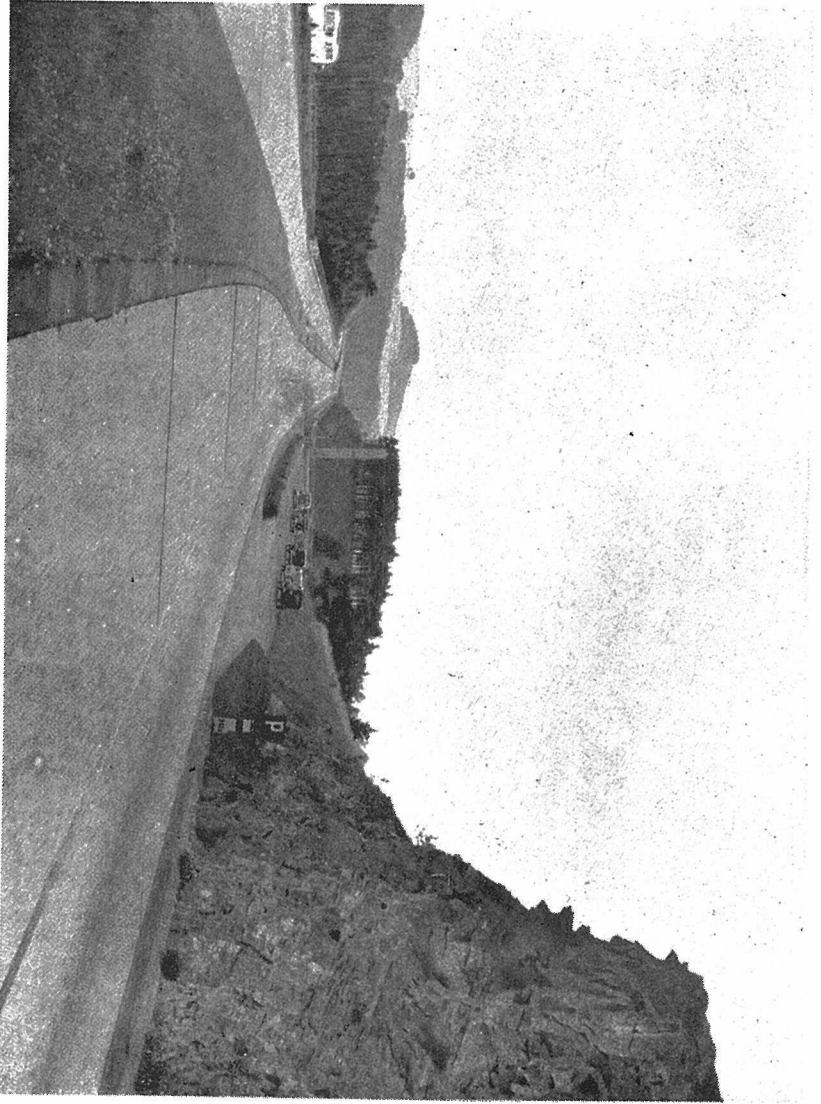
東京市 丸ノ内 海上ビル

ゲーラツハ橋(上バイエルン)

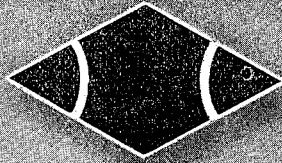


ヒットラー總統の目標は過去現在を通じて獨逸の目標である。それは平和に闘
ずるものであつた——文化的社會的大事業の他に全獨逸に建設された紀念すべき

自動車専用道路が之を證明する。今や獨逸の目標は、獨逸を滅ぼさん爲に戦ひを
挑んだ敵を征服することである。「プロイテュメント誌より」



チューリゲン附近的ライヒスアオトーパツ (道路の右側は駐車場)



アスファルト

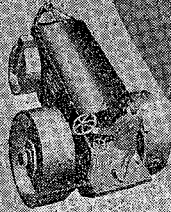
フロンタスファルト
スチールアスファルト
ウォーターアスファルト

小倉石油株式会社
専属販売店

株式會社

南部商會

本店 東京丸の内三基六号館・電話丸の内 1654-5014
出張所 名古屋市中区南大津通東陽ビル・電話中區 2785 番



事五装舗路道トルアフスア

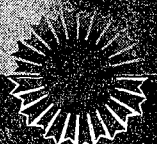
事五装舗トルアフターオウ割乳青瀝

費販理代トルアフターオウ・トルアフスア倉小

費販造製グソイフルヒサア

社會式株木工市都

地番二目丁一橋京區橋京市京東
番八六二二(56) 橋京 話電



昭和十五年

道路の改良

九月一日

卷二十二第

號九第

言 頭 卷

人、言を出して至善なることあれども或は之を議する者あり。人、事を擧げて至當なることあれども或は之を非る者あり、蓋し衆心は一なり難く、衆口は齊しくし難きこと此の如しと言へる古人がある、世は寔に此言の如き實相である。執政の局に當るもの民衆指導の任に在る者の心すべきことである。苟くも國家の歩むべき理に循ひ、國民の頼るべき道に稽ふるに於ては紛々の言また郵ふるに足らず必ずしも辨せずして可なりと昔の如き取りすましたる態度に出づることは許されないのが現下の世相ではなからうか。

近衛内閣は其の策定する所の基本國策要綱を發表し國民の嚮ふ所を指向せられた。その根本方針と云ひ、國防及外交方針といひ將又國內體制の刷新といひ、世界の一大轉機に際會し國家群の改造を想はしむるものあるに當り我等日本國民に取りては最高の羅針盤たるの感を生起せしめられた、而かも新體制の確立に當つて飽くまでも大日本帝國憲法の條章に則るべきで憲法は千載不磨の大典としてこれを尊重し、いさゝかも變更すべきではないと近衛首相は公言せられて居る。其の深き用意と厚き敬虔の念慮とは一般國民の衷心から信頼する所である。

我國は大日本帝國と公稱せらる。然るに這次の基本國策要綱には帝國とは謂はず皇國と稱す其意那邊に存するにや帝國と皇國との間に如何なる意義の異なるものありやと一なり難き衆心、齊しくし難き衆口の中には或は疑問を懐くものあるやに仄聞す。之れ寔に思はざるの甚しきものである。近衛首相が千載不磨の大典たる憲法を尊重し其の條章に則るべき旨を殊更らに公言せられたるは蓋し之に對するの用意に出でたるものと信ぜらるゝのである。實に近衛首相の企圖せらるゝ新體制は大日本帝國本然の政治態性に順應し全國民の熱誠と奉公心とを結集綜合して強靱なる政治力を建設せんとするに在る、換言すれば肇國の大精神に基きて現實に即し新政治道を求めんと欲するの理念に出づるものと推知せらるゝのである。國民は須らく小我に基く疑念を去り、心を一にし口を齊しくして協力一致國運振張の一路を辿るべきであらう。吾曹は念ふ民衆をして克く事理を認識せしめ、苟くも公益を闕却し自己中心主義に墮することなく、眞に國家の根源力を培養して億兆一心以て現下の時艱を克服することに専念せしむべく而かも之を指導し善誘するに當り萬一にも書齋裡を出でざる理念に依據するが如きことあらしめてはならぬと。(洮民)